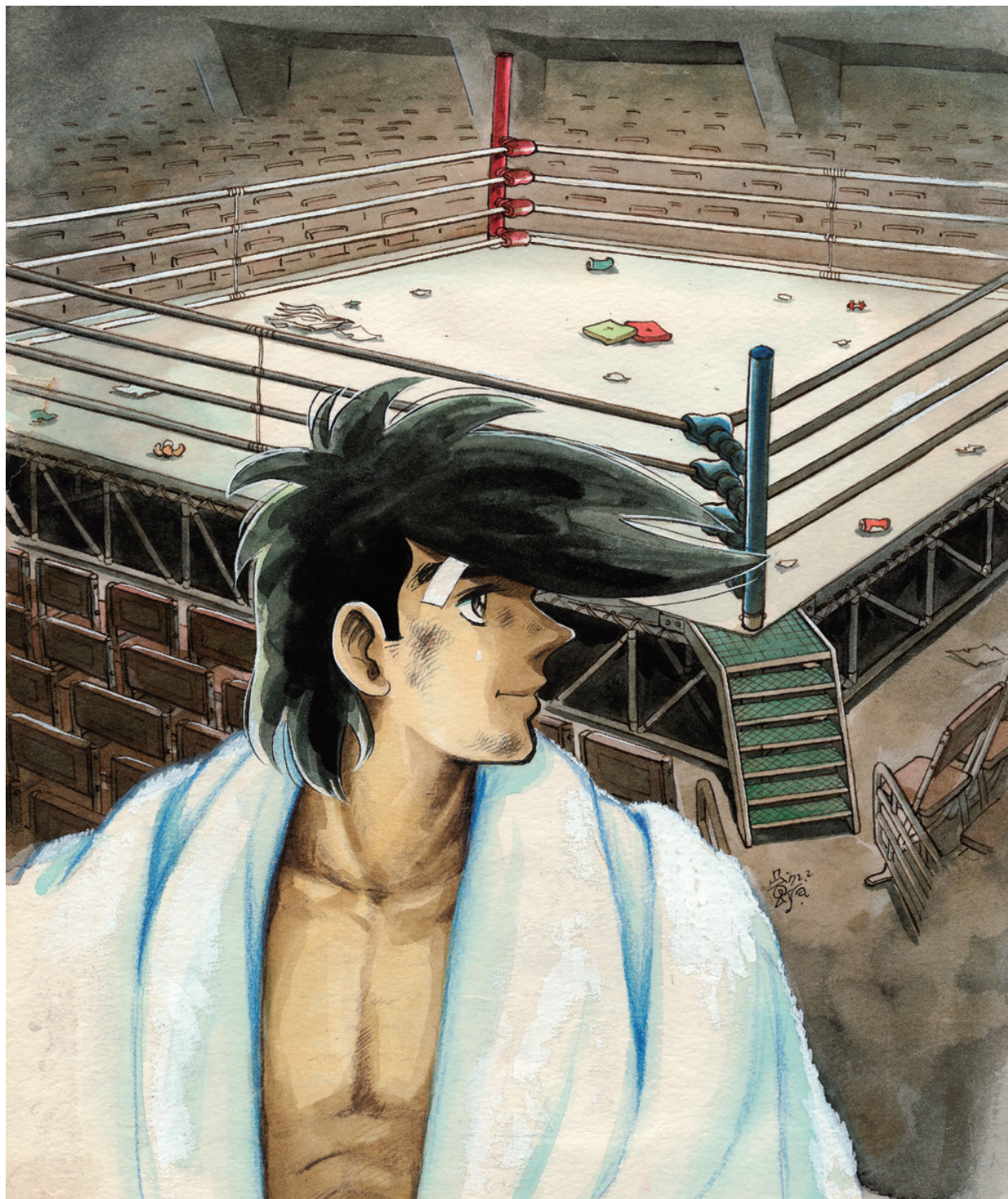


世田谷文学館 ニュース

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

館長の作家対談
俵万智(歌人)



『あしたのジョー』© 高森朝雄・ちばてつや/講談社

2019年度コレクション展後期 開催報告

2019(令和元)年度の収蔵品について

2019年度世田谷文学館事業報告

館長の作家対談

ゲスト
俵 万智
(歌人)聞き手
菅野昭正
(世田谷文学館館長)

今年9月末にあらたな歌集『未来のサイズ』を刊行した俵万智さんをお迎えし、当館館長がお話を伺いました。今回は、世田谷と宮崎県をつなぐオンライン対談です。

短歌との出会い

菅野▼今日はお忙しい時間をいただいて、どうもありがとうございます。俵さん、お元気ですか？
俵▼はい、元気にしております。そちらに伺えれば良かったです。

菅野▼新型コロナウイルス感染症がまだこのような状況ですから仕方がないです。このように遠く離れていながらオンラインで対談をすることに、僕はさつきから不思議な気持ちがいっているのですが、俵さんはこういった打合せや対談などをよく経験なさるのでしょうか。

俵▼そうですね。何度かあるんですけども、ちよつと不慣れなところもありますね。

菅野▼俵さんの作歌生活も長くなりましたね。今日はそのあたりを色々とお伺いできたらと思います。まずは、最初に歌というものに目覚めたきっかけについて、いつ頃、どのような理由で短歌に関心をお持ちになったのでしょうか。

俵▼大学2年生のときに佐佐木幸綱先生の講義

を受けました。それは一般的な文学論の講義だったのですが、とても魅力的でしたので、この先生の書いたものをもつと読んでみたいと思い探したところ歌集がありました。佐佐木先生の歌集を読んで関心を持ったのが最初のきっかけですね。

菅野▼それ以前に、例えば中学、高校生の頃に短歌をお詠みになったとか、そういうご経験はありましたか。

俵▼学校の授業で習ったり、国語の時間につくったりしましたが――所属した演劇部の顧問の先生が短歌をつくる人でしたので、ちよつとつくつてみたりしたけれども、そのときはそれで終わってしまつたという感じです。

菅野▼高校生の頃は、それ以上短歌に深入りしようというお気持ちは起こらなかったのですね。大学時代に佐佐木さんにお会いになって、本格的に短歌をつくらうという志をお持ちになられたのですか。

俵▼はい。私自身もそれまでは短歌を古めかしいというか、サンプルが古いものばかり見ていたもので、今の時代の表現手段として成立しているというイメージを持っていなかったんです。けれども、

平井弘とか村木道彦とか、その人たちの歌の魅力が栄養になったような気がします。

菅野▼俵さんは当時、歌をおつくりになるときにオリジナルな新しい短歌をつくるんだという意気込みのような、積極的なお気持ちはおありになりましたか？

俵▼いや、それはほぼ考えてなかったです。菅野▼ごく自然につくられたのですか。

俵▼はい、もう歌をつくるのが楽しくて。五七七という表現方法というか、魔法の杖のようなものを手にして楽しくて仕方がないという感じでしたので、『サラダ記念日』の反響の大きさにビビるといいますか、驚くばかりでした。

菅野▼佐佐木幸綱さんにも短歌をお見せになっていたのですよね。

俵▼はい。佐佐木先生の主宰する「心の花」という会は、佐佐木信綱のときから「広く、深く、おのがじしに」――自然体でそれぞれのやりたいことを歌つていけばよいということなので、先生は片仮名を使つたら駄目だとか全く仰いみせんでしたし、むしろ面白がつてくださつて、「この方向で

佐佐木先生の作品を見たら「あ、これはまさに現代の詩として機能している短歌だ」と思ひまして、これだつたら私もつくつてみたいという気持ちになりました。

七月六日はサラダ記念日

菅野▼俵さんの作品を初めて知つた『サラダ記念日』は、それまでの短歌の世界と画期的に違つていると思ひました。古典は別として、近代短歌では苦しみや悲しみといった、どちらかというと人生の暗い面が詠われることが多かつた。俵さんの短歌は口語体で非常に明るく、新鮮な感じがすると一般的に受け取られたのではないかと思ひます。このような世間的な反響を、ご自身ではどのようにお考えになりましたか。

俵▼まず、人生の暗い面というか、どうしても湿つぱいものが短歌の主流だったのは、大きな流れとしてあるのではないかと思います。私自身は、同じ出来事に対しても、どちらかというと肯定的に捉えたいというのが性格としてあるので、歌に関しても人生のマイナス面を掘り下げるよりは、プラス面を受けとめるようになっていたのかなと思ひます。失恋の歌でも「じめじめした暗さがいいね」と、当時から言われましたね。歌壇の中では、『サラダ記念日』の前年に短歌雑誌の新人

いいんだな」という気持ちでいました。

菅野▼それはいい先生に巡り会いましたね。先生によつて「これは短歌じゃないよ」とか、そういう受け取られ方をされかねなかつたかもしれませんよね。

俵▼そうですね。短歌賞に応募する時も先生にちよつとお目にかけたら、カンチューハイの歌（嫁さんになれよ）だなんてカンチューハイ二本で言つてしまつていいの〜に二重丸を付けてくださつて。私は割と軽い気持ちでつくつた歌でしたのでそれほどでもないと思つていたのですが、先生の二重丸だからそのまま入れておこうくらいの気持ちでいたら、結果的にはその歌がす〜く注目されました。

菅野▼俵さんの歌には日常的な、口語的な言い回しが短歌の調べの中にちゃんと収まつていて、それが僕には非常に不思議でした。（この味がいいね）と君が言つたから七月六日はサラダ記念日のように、今までにない歌い口がきちんと形に嵌つている印象があります。七夕の前日にあたる7月6日というのは、何か特別に意識された日付なのですか？

俵▼はい、それは意識しました。現実には7月6日だつたということでは全然ないです。「サラダ記念日」という言葉が最初に思ひ浮かんだので、サラダが美味しい季節がいかなと思ひましたし、サラダのSと響き合う意味でも7月にしました。七夕ではちよつと「つきすぎ」な感じがするので、七夕の前日あたりがいいかしらと。

菅野▼7月7日だと少々世俗的な雰囲気になるかもしれませんがね。歌に描かれた情景が実際の体験でもフィクションでもそこは全然構わなくて、7月6日という言葉に非常に意味があるような気がします。皆が考えさせられてしまうような日付をお選びになったのも、成功した一つの理由なのではないでしょうか。

日常のささやかな喜びを形にする

菅野▼さつきも申しあげましたが、俵さんの出現

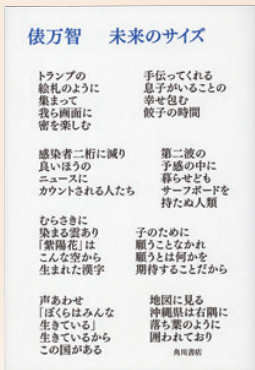
ひら』『チョコレート革命』『オレがマリオ』、著書に『あなたと読む恋の歌百首』『考える短歌』『たんぼの日々』ほか多数。1996年より読売歌壇選者。



『サラダ記念日』第一歌集
1989年 河出書房新社
(単行本は1987年)



『牧水の恋』
2018年 文藝春秋



『未来のサイズ』第六歌集
2020年 角川文化振興財団



『ホスト万葉集』
編：俵万智、野口あや子、小佐野弾
2020年 短歌研究会

は、口語体を背景とする短歌の新しい領域を広げた画期的なものではないかと思ひます。近代短歌の歴史を遡ると、明治30年代の与謝野晶子の出現が思ひ浮かびますが、それまで遠回しに詠つていた感情や官能生活をあらわな言葉であらわした『みだれ髪』が、当時の画期的な新しさとして受けとめられただろうと想像しますが、俵さんご自身はそのような意識はお持ちでしょうか。

俵▼いえいえ、私はただただ歌が好きでつくつていただけです。与謝野晶子に関しては、尊敬する歌人で短歌はす〜く好きなのですが、今の若い人たちが読めなくなつてきているのは勿体ないなと思ひます。だから、自分なりに五七七七七で訳してみようと思ひ（その子二十歳嬢にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな）を（二十歳とはロングヘアーをなびかせて畏れを知らぬ春のヴィーナス）という風に訳したりしました（『チョコレート語訳 みだれ髪』1998年）。『サラダ記念日』については、時代として、そういう口語短歌が求められる機運が高まつていたような気がします。だからこそ、多くの人が受け入れてくれて、それに続く人たちがも出てきてくれたのかな。私はその「きつかけ」だという感じです。

菅野▼俵さんの歌は日常生活に向かい合つて、実生活や人生の過程に即した題材で詠っている印象があります。そのような題材の取り方は、ご自身の方針として続けてこられたのでしょうか。

俵▼そうですね、それはす〜く大切にしたい点です。私はドラマチックな人生とか、特別な人生からしか歌が生まれたいとは思ひて思ひたくなくて、本当に日常のささやかな喜びを形にしてくれるのが、短歌の最大の魅力だと思うので、それを自分でも心がけて実践してきました。

菅野▼例えば寺山修司の短歌を例にすると、題材の取り方が飛躍的というか、ある境界を踏み越えて、自分と距離の隔たつた問題を歌にしているところがあります。そのあたりの問題はどうお考えですか。

俵▼寺山の作品はとても好きです。彼は演劇をし

ていたのが大きいかもしれませんね。ドラマチックですし演劇的な短歌だとも思います。

菅野▼俵さんも演劇をなさっていたと伺いましたが、舞台に立たれたことはありますか？

俵▼高校生の部活動でのことです。私は演劇が好きなので、自分が演じる側でなくなっても常に関心を抱いています。最近ではコロナのせいではなかなか難しくなりましたが、今でも舞台を観るのは大好きですね。

菅野▼どのようなものをご覧になれるのですか？

俵▼世代的には野田秀樹さんとか、もう少し上のつかこうへいさんとか、松尾スズキさんとかの作品などは欠かさず観てきました。

菅野▼今は宮崎県にお住まいとのことですが、感染症の騒ぎを別にして演劇に触れる機会は少なくなりましたか？ 地方の演劇は今、どのような状況でしょうか。

俵▼宮崎でも5年くらい前から面白い試みをしています。毎年、第一線で活躍する劇作家を招いて、滞在のち戯曲を創作してもらい、それを宮崎で上演するのですが、ひとつひとつが骨太で面白いです。今年初めて東京でも上演しますので『神舞の庭』長田育恵作／立山ひろみ演出、宮崎発の良質な演劇をぜひ観て欲しいですね。最近では平田オリザさんなど地方に拠点を移す演劇人もいますし、東京一極集中でない動きも出ています。宮崎もそうです。

菅野▼それは興味深いですね。宮崎の前は石垣島にいらつしやつて、あちらでは土地に馴染むまでに時間がかかったりしませんでしたか？

俵▼石垣は東日本大震災がきっかけで、取りあえず息子の春休みの間避難していました。小学生男子にとっては天国のようなところで、ついつい帰りそびれたというか。浦島太郎みたいな感じで、竜宮城で遊んでいたような5年間でした。

菅野▼その間は石垣島を題材にして歌をつくられた訳ですね。歌は毎日おつくりになるのでしょうか。

俵▼必ず毎日という訳ではありませんが、常にア

ンテナは張っているような感じはあります。菅野▼あれは大部分以前、30年くらい前に朝日新聞の書評委員会で一緒に緒したときかもしれません。俵さんは歌ができる、洗濯ばさみでどこかに挟んで置いておくというようなことを言っておられたのが印象的でした。

俵▼そうですね。私は歌の順番を考えるのが好きで、歌集などに入れるときの歌の配列にすごく関心があるんです。それで実際に歌を洗濯ばさみで挟んで一首、二首、三首、四首と並べていつて全体の配列を考えるとというような話をしましたね。

菅野▼僕はそのお話で「洗濯ばさみの俵さん」というイメージができたらしい。なかなか楽しい書評委員会でしたね。

俵▼笑ああ、懐かしい。

「悲しみ」と「哀しみ」

菅野▼俵さんの『牧水の恋』を拝見しました。僕は小学1年生の頃に沼津に住んでいて、いつも遊んでいた千本松原という海岸に牧水の歌碑へ幾山河越えさり行かば

寂しさの終てなむ國ぞ今日も旅ゆくゝがありました。これは「いくさんが」と読ませることもあるのでしょうか。「いくやまかわ」だと字余りになりますね。

俵▼これは「いくやまかわ」であつて欲しいですね。

菅野▼へ白鳥は哀しからずや空の青海のあふに染まずただよふの白鳥は、「はくちよう」でなく「しらとり」と読ませます

ね。この鳥がどこを漂っているのかという議論があるんですね。

俵▼そうですね。1羽か2、3羽か、多くかというところもありますし、飛んでいるのか、海面に浮かんでいるのかという、答えはそれぞれなのではないかというように読むかという議論があります。

菅野▼「ただよふ」の解釈ですが、「はくちよう」が空をぐるぐると漂うのは生態上、難しいように思います。渡るときも、白鳥は海にはあまり行きませんよね。

俵▼ユリカモメじゃないかなとも言われています。白い鳥だから様々な考えができるのですが、海に漂うのならカモメかなという感じもします。すごく有名な歌なのに、実は定まっていなくてというのが興味深いですね。

菅野▼漢字の使い方は、とても難しいのではないかと思います。「幾山河」の歌にしても、「終わり」の漢字を使つて「終てなむ」と読ませます。漱石の文章も当て字が沢山ありますが、明治時代はそういう表記についての規則が自由でアナキーなところがありました。俵さんは歌をつくられるときに、こういった文字遣いについて特別に思うところがあります

でしょうか。短歌に使用したいのだけれど、あまり一般的でない文字遣いなど何かありますか？

俵▼短歌は基本、文字のない時代からあったもので耳から入る言葉ですから、どちらかというと文字よりも調べを大切に考えます。しかし今の時代はどうしても、目で読む短歌が殆どになってい

と無視できないところがあります。ですから見た目といいますか、漢字・平仮名・片仮名、あるいはどういう漢字を使うかというのは、すごく気にかけてはいますね。

菅野▼牧水の初期の歌集『別離』には「寂しさ」とか「悲しみ」という言葉がよく出てきます。今日は俵さんが昔教鞭をとった橋本高校の生徒になったつもりで、万智ちゃんを先生と呼んでお聞きしますが（万智ちゃんを先生と呼ぶ子らがいて神奈川県立橋本高校「サラダ記念日」）、「白鳥は哀しからずや」のように、「かなしい」という言葉に悲哀の「哀」を使うときと、普通に「悲」を使うときと、どのような使い分けをしているのでしょうか。

俵▼そうですね、「哀」というのは哀愁という熟語があるように、少し愁いを帯びた悲しみというようなニュアンスを私は感じます。「悲」のほう

は悲痛という熟語を思い浮かべますけれども、ストリートに痛い感じの悲しみでしょうか。

菅野▼「哀」の場合はなかなか外へは出せない、心の内側に秘めたもの。「悲しみ」の方は例えば人前で泣いても構わないように外に発散できるもの、というような違いなのではないか。

未来のサイズ

菅野▼俵さんは仙台、石垣島、宮崎と住まいを変えられて、生活は土地によって少しずつ変わってきたかと思えます。それに即して、日常的な歌を詠われてきた中で新しい境地についてはいかがでしょうか。今度の歌集『未来のサイズ』を拝見して、韓国のセウォル号や国会に題材を取った歌〈都合悪き〉とのなければ詳細に報じられゆく隣

国の事故〉〈議場騒然、聴取不能〉と記されし八分間の行方わからずが印象的でした。このように社会批判や風刺を含む歌は、今まで俵さんの作品にはあまりなかったような気がしますが……。

俵▼セウォル号の沈没事故では多くの高校生の命が失われたので、私自身高校で教員をしていたことや、子どももそれに近い年なこともあり、色々なものを読んだり報道に触れたりしました。隣国での出来事なのですが、突き詰めていくと、構造としてはこの国で起こっていることも重ね合わせられるのではないかと感じがして、一首一首の単発ではなく、まとまった連作という形で表現してみたいと思いました。やはり、子どもの成長に伴って、子どもは社会性を帯びてきますし、子どもたちの未来や社会というものについて、心配することが多くなったことは大きいと思います。ご指摘いただいたように、今回の歌集が今までと違うのは、そういう社会的な歌というか、時事詠のようなものが入っているところだと思います。

菅野▼歌の世界を広げることと関連して、新しく社会的な目が広がってきたという風に考えてもよろしいでしょうか。

俵▼自分の興味・関心が広がったことに対応して、歌がそういう風に広がってきたという感じでしょ

うか。

菅野▼社会的な視野を広げた歌をこれからつくっていたらと面白いなと思います。しかも、俵さんのオリジナルな会話を多用したり、あるいは片仮名をたくさん使ったり、口語の自由な歌い方になったりというのを失わずに、社会的、思想的な題材で詩歌をつくるのはなかなか難しいとは思いますが、歌の世界も多様な広がりを持つようになることを期待しております。

俵▼ありがとうございます。ただのスローガンや愚痴になったりしては駄目なので、短歌としての魅力をきちんと持つ上で表現していきたいです。次の世代の子どもたちなんかは本当に、世界とつながっているなという感じがしますので、横の広がりというのは私も関心はありますね。



さんの影響力というのは、ご自身でどうお考えか分からないけれど、とても大きいものだと思います。そういうポジションにいらつしやるので、短歌の世界の牽引力になっているだけだと期待しています。

俵▼私は本当に短歌が大好きなので、一人でも多くの人に触れてほしいって思っています。先生、私、2年以上前から、新宿の歌舞伎町のホストの皆さんと歌会をやっているんですよ。

菅野▼ホストクラブ？ 夜の街じゃないですか。

俵▼今、大注目夜の街です。ホストたるもの歌の一首も詠めた方がいいという考えの読書家の経営者がいて、歌舞伎町に書店(歌舞伎町ブックセンター)をつくつたりした人なのですが、自分のお店に勤めているホストたちにも言葉のトレーニングをさせたいということで歌会を始めました。私以外にも小佐野弾、野口あや子という歌人3人で指導する歌会を地道に続けているんです。今回コロナで図らずも、あまり良くない注目を浴びてしまいました。彼らの歌をまとめて『ホスト万葉集』という本にしました。書籍にしたときにすごく反響があつて、夜の街、ホストつてひとくりにできない、それぞれの人生を描くことができたので良かったなと思いました。短歌つてそういう力もあるのですね。

菅野▼日本人の感情生活に合った形なんでしょうね。夜の街という、俵さんの歌にへカギカッコはずしてやれば日が暮れてあの街この街みんな夜の街」というものがありましたね。「あの街この

街」というのは、野口雨情の童謡などの影響はあるのでしょうか。

俵▼そうですね。なかなか気づいて貰えないのですが、私はもちろん「あの町この町」を下敷きにしました。指摘していただいたのは今初めてで嬉しい。それを作者が言つてしまうと種明かしになつちゃうんですけども。

菅野▼とても面白い、いい歌ですね。

俵▼ありがとうございます。その一首にたどり着くには、ホストの皆さんとの2年間の背景にある。

菅野▼今年の感染症騒ぎが始まつてからの作ですね。

俵▼そうですね。歌集の表紙にあるヘトランプの絵札のように集まつて我ら画面に密を築しむは、今の先生とのこういう感じなんですけれども、これも実は背景を言うと、ホストの皆と直接会う歌会ができなくなつてZoomで歌会をしたときに生まれた歌です。

菅野▼ホストクラブが歌の世界に入った訳ですね。俵さんはサッカーとか野球とか広島カープなんかも取り入れていたように思いますが、今まで歌にならなかつた題材をどんどん取り入れていくことは、ごく自然体でやつていらつしやるのでしょうか。

俵▼はい。珍しいものをわざわざつていうのではなくて、自分の暮らしに入ってきたときは、ミィハーな心を全開にして楽しんで結果、歌になるという感じですね。

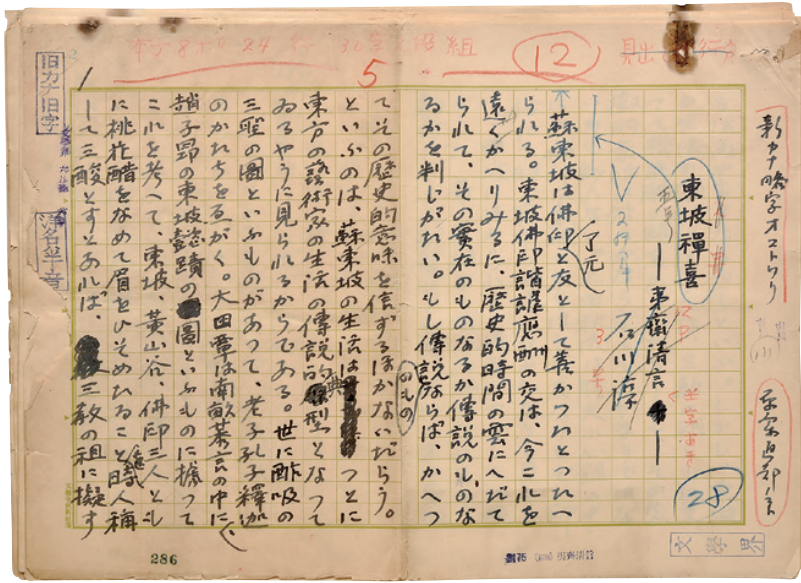
菅野▼日常生活の延長でもあるわけですね。「生きることがうたうことだから。うたうことが生きることだから」(サラダ記念日あとがき)のように毎日を過ごしている。俵さんの人生は幸せな人生ですね。

俵▼歌をつくっているおかげで、日々を丁寧に暮らしているなつていうのが一番、歌をつくつていて幸せなことですね。歌のおかげで人生を大切にできているという感じがします。

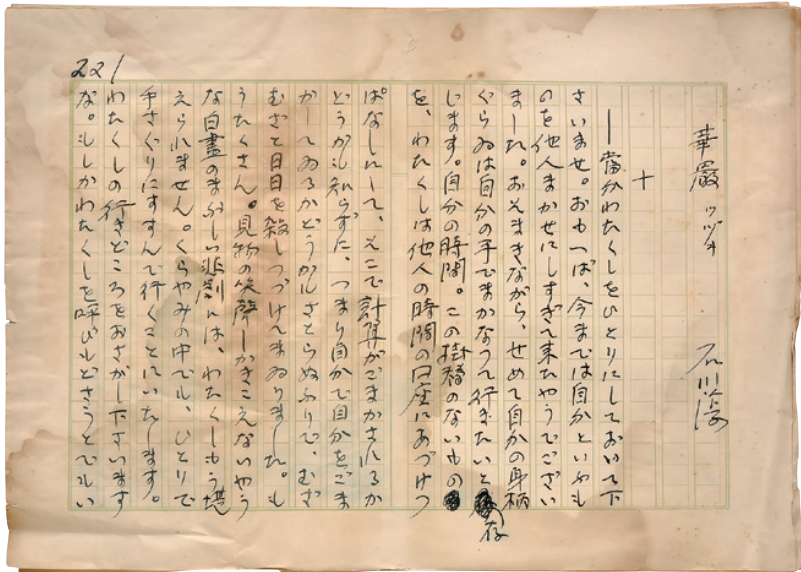
2020年10月23日
世田谷文学館館長室にて、Zoomによる対談

◎ 石川淳 資料 ◎ [504点]

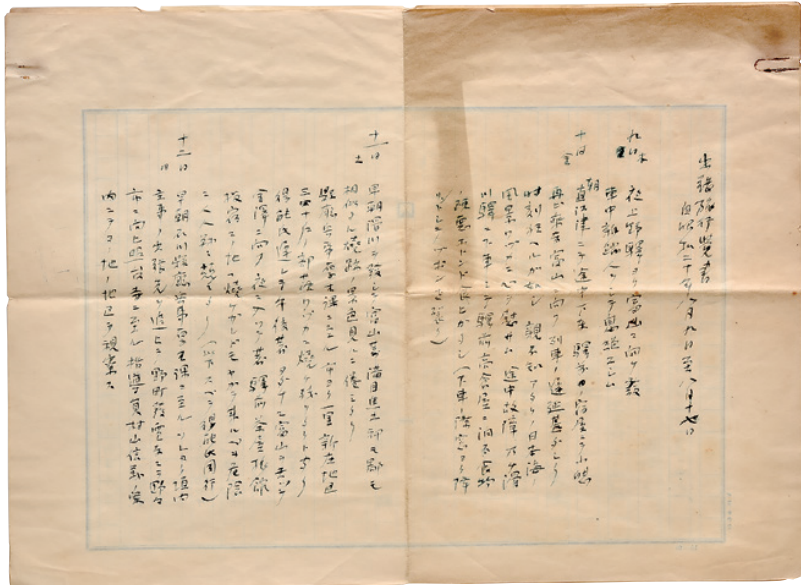
寄贈者：石川眞樹様
寄贈品：『夷齋俚言』、『夷齋清言』収録原稿一式、「華嚴」、「鷹」原稿ほか、
創作メモ、日記、受信書簡など



石川淳 「東坡禪喜」原稿(『夷齋清言』収録)



石川淳 「華嚴」(十)原稿 *未発表分



石川淳 「出張旅行覚書自昭和二十年八月九日至八月十七日」

2019(令和元)年度の収蔵品について

昨年度に収集した収蔵品は504点(全て寄贈)です。
寄贈者のご協力に感謝申し上げます。主な収蔵品をご紹介します。
(敬称略・順不同)

▼石崎等様 井上ユリ様 鶴沼禮子様 木曾陽子様 鴻巣友季子様 関戸信治様 戸成了晟様 野本増美様 林浩平様

▼青森県近代文学館 跡見学園女子大学 市川市東山魁夷記念館 茨木市立川端康成文学館 射水市大島絵本館 岩波書店 浦安市郷土博物館 江戸東京博物館 かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館 神奈川近代文学館 紙の博物館 川崎市大山街道ふるさと館 国立国会図書館・国際子ども図書館 小諸市教育委員会

文化財・生涯学習課 さいたま市大宮盆栽美術館 サトエ記念21世紀美術館 実践女子大学 司馬遼太郎記念館 昭和女子大学光葉博物館 新宿区立漱石山房記念館 杉並区立郷土博物館 高見順文学振興会 田原市博物館 たましん地域文化財団 茅野市美術館 調布市武者小路実篤記念館 月の輪書林 東京子ども図書館 中原中也記念館 二松学舎大学 日本歌人クラブ 沼津市芹沢光治良記念館 福永武彦研究グループF2の会 ふくやま文学館 文京区立森鷗外記念館 ミュージアム都留 武蔵野市立

2020年7月21日〜2020年10月20日

資料受贈報告

武蔵野ふるさと歴史館 山梨県立文学館 郵政博物館 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

▼「海」「海紅」「経堂雑記」「くさくさ」「九品仏川柳句会報」「原型富士」「鴻」「心の花」「さつき」「抒情文芸」「川柳研究」「蠶」「短歌人」「地中海」「プチ★モンド」「煙」「窓」「ランブル」「りんごの木」「暦日」

(五十音順・団体名敬称略)

企画展のご紹介

あしたのために あしたのジョー！展
―情熱的にあすを生き抜くために―

2021年1月16日(土)〜3月31日(水) 2階展示室



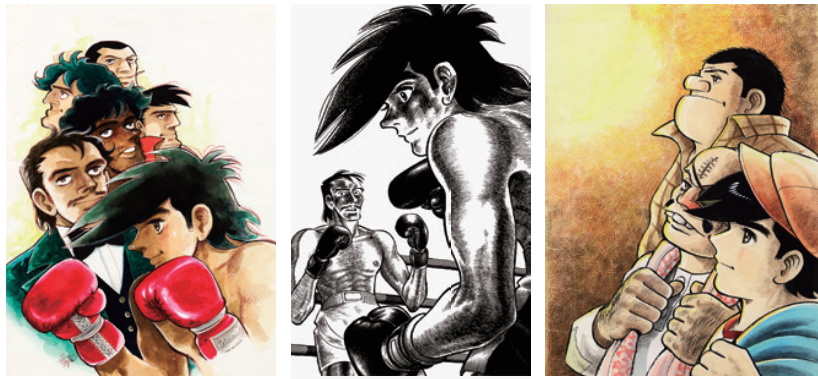
芸術文化振興基金助成事業

1968年の連載開始から50年を経て、スポーツマンガの金字塔といわれる『あしたのジョー』は、国民的マンガ作品として、今も世代を超えて多くのファンに愛されています。

『あしたのジョー』は、東京五輪(1964年)前後を時代背景とし、天涯孤独の主人公が、スポー

ツを通して成長する姿が描かれています。ある日少年院送りとなった矢吹丈のもとへ「あしたのために」と題する拳闘指南の葉書が届きます。彼は葉書をトレーナーにみため、言葉をも肉体化するための訓練(シャドーボクシング)を開始します。ボクシングに「自らの命を燃え尽くす程の情熱」を見出していくジョー。

本展は、100枚を超える貴重な原稿を通じて、魂のスポーツマンガ『あしたのジョー』をご紹介します。



画像は全て©高森朝雄・ちばてつや/講談社



【小栗虫太郎関連資料】
「黒死館殺人事件」原稿と
「新青年」掲載時の挿絵を展示



【会場内風景】
着物とコートは横溝正史愛用の品。
ドテラ姿で成城の街を散歩したという



【海野十三郎関連資料】
海野の肖像は横溝が大切に持っていたもの
【フォトコーナー】
松野一夫が描いた金田一耕助と写真が撮れる



【横溝正史関連資料】
愛用の品々からは横溝の飾らない性格がうかがえる



＊新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定会期(4月5日)前に終了しました。

本展は2019年10月12日から2020年3月29日まで開催いたしました。

雑誌「新青年」は1920(大正9)年1月に博文館より発刊されました。誌名の通り、青年たちをターゲットにしたこの雑誌は、海外雄飛を謳うところからスタートし、やがてミステリーを主に、多ジャンルにわたる作家たちを世に輩出していきます。本展では「新青年」を出発点とした世田谷ゆかりの作家たちを中心に、彼らの作品と交流とを原稿類や書簡等の所蔵コレクションでご紹介しました。

名探偵金田一耕助の生みの親・横溝正史は1921(大正10)年に「新青年」に応募した懸

賞小説「恐ろしき四月馬鹿」で作家デビューを果たします。横溝はその後、「新青年」の編集長も務めます。戦後、世田谷・成城に移り住んだ横溝は、旺盛な作家活動を行いました。日本SF小説の父とも称される海野十三は1914年(大正3)年に「電気風呂の怪事件」で「新青年」デビュー。科学者でもあった海野はその知識を活かした小説を執筆、後世のSF作家たちに影響を与えています。『日本三大奇書』の一つに数えられる『黒死館殺人事件』を書いた小栗虫太郎もまた、「新青年」を足掛かりに作家としてはばたきました。彼らはそのおどろおどろしい作風からは想像しがたい、温かな友情を互いに築きました。彼らがのこした書簡や文章からはその交流の様子がうかがうことができます。

2019年度コレクション展後期のご報告

＊「世田谷文学館」コース「74号再録記事」
74号(2020年3月発行)は、新型コロナウイルス感染症による事業変更に伴い配布を中止したため、本号で再録します。

教育普及事業



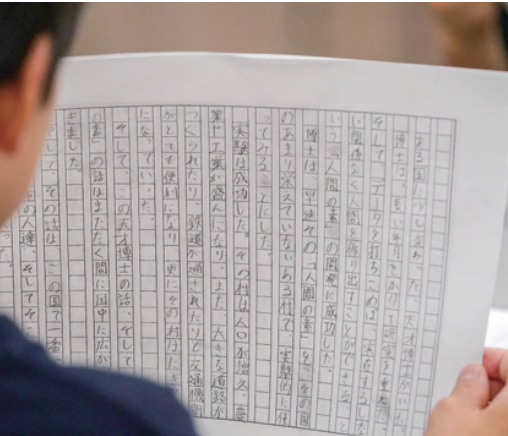
ことばとからだ 〜からだで表現しよう〜
出演：日本女子体育大学 ダンス・プロデュース研究部
（顧問：松澤慶信） 8月22日



だれでも製本家 〜本の形に仕立てよう〜
講師：佐藤真紀、中野裕子 会場：奥沢区民センター 8月9日



セタブンマーケット（シージェッター海斗 撮影握手会）
協力：芦花商店街振興組合、石ノ森萬画館、石森プロ、街づくりまっぽう
2019年6月1日



だれでも小説家 〜ショートショートを書こう〜
講師：荒居蘭 9月7、8、16日



出張展示「宮西達也と子どもたち」
会場：希望丘保育園 9月2〜30日



pipioといっしょに
講師：pipio（武本佳奈絵＋平澤明子）
4月21日、8月23日、9月7日、12月8日



もっと朗読を楽しもう 〜プロの読み方を聞いてやってみよう〜
講師：緒方賢一、水田わさび 11月9日



0才からのジャズコンサート
出演：クニ三上、林正男、田村陽介 11月6日



ロビンソン・クルーソー刊行300年記念イベント
講演会「物語を旅すること」 出演：高橋大輔 9月22日



〈ぼんとな〉哲学カフェ
出演：幡野雄一 5月25日、9月15日、11月10日、2020年2月15日



ワン・ミニット・ムービー 〜オリジナルの動画をつくらう〜
講師：本田友美、北坂昌人 2020年2月1日



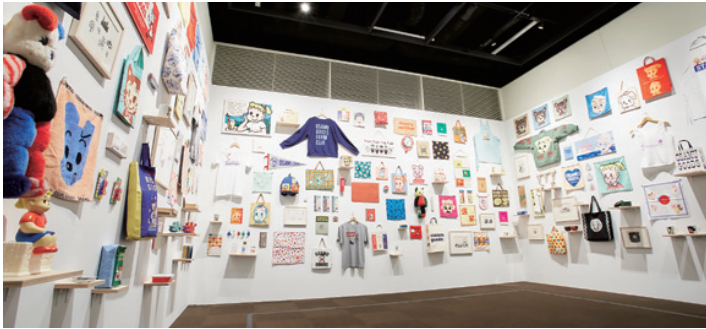
芦花小学校＋大竹英洋ワークショップ
講師：大竹英洋 会場：世田谷区立芦花小学校、都立蘆花恒春園
11月11、12、15日

TOPICS

企画展 展示風景



萬画家・石ノ森章太郎展 ―ボクは、ダ・ビンチになりたかった― 2019年4月20日〜9月23日



原田治展「かわいい」の発見 7月13日〜9月23日



小松左京展 ―D計画― 10月12日〜12月22日



六世 中村歌右衛門展 ようこそ歌舞伎の国へ 2020年1月18日〜3月29日
＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定会期(4月5日)前に終了

コレクション展 展示風景



後期：「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち
10月12日〜2020年3月29日
＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定会期(4月5日)前に終了

前期：仁木悦子の肖像
4月20日〜9月23日

令和元年度は、自然災害の影響を受けつつも、事業展開に工夫を凝らし、利用者総数は25万人を超えた。企画展示では、東京2020大会を前に、日本文化の多彩な魅力を顕彰する観点からマンガ、デザイン、SF、歌舞伎それぞれのジャンルでひとつの時代を築いた作家、アーティストを取り上げた。「萬画家・石ノ森章太郎展」では、万物を表現できるメディアとして『萬画』を提唱した世界・多作なマンガ家・石森章太郎の活動を、石ノ森萬画館（石巻市）の、東日本大震災からの復興のドキュメントとともに紹介した。

「小松左京展 ―D計画―」のタイトル「D計画」とは、代表作『日本沈没』の作中で遂行されるプロジェクト名である。戦争・自然災害・疫病などの大いなる災いのDSMにどう向き合うべきかを追及し続けた小松の文学を、「D計画」として読み直そうという試みであった。今や身近に迫った危機としてのDSM「コロナ」を、膨大な知識と調査のもとに作家的想像力を駆使した小松の先見性を再評価する機会となった。

「コレクション展」は、前期は長く世田谷に住み、「日本のクリスティー」とも称された仁木悦子を、推理作家と童話作家の両面から紹介した。会場では、交友のあった寺山修司からの若き日の書簡を初めて公開した。後期は、1920年代から30年代にかけて、多くの探偵小説作家を輩出した雑誌「新青年」と横溝正史、海野十三、小栗虫太郎ら世田谷ゆかりの作家たちの交流を紹介した。

資料収集・整理事業では、作家・石川淳の『鷹』『夷齋清言』一式など代表作の原稿、諸家書簡など貴重な文学資料約500点を受贈、デジタル画像の撮影などを進めた。またホームページ上での「コレクション検索」サービスに向けて一部収蔵品の公開用データの点検・整備を行った。

教育普及事業については、出張展示や館の内外でワークショップなどの活動を行う「どこでも文学館」は、30回を超える展示と約20回のワークショップを実施し、あわせて約13万人の利用者があった。今年度は教育委員会の委託を受け、初めて幼稚園、保育園で出張展示を実施した。絵本作家・宮西達也の作品世界を紹介する展示を観て絵本を購入したという保護者や、ぜひまた展示を希望したいというスタッフの感想が寄せられた。また、新規出張展示キットは、「原田治 OSAMU'S MOTHER GOOSE」「大竹英洋 ノースウッズ ―生命を与える大地―」の2セットを制作した。

一人の作家を複数の視点から多角的に顕彰する連続講座は、「遠藤周作 神に問いかけつづける旅」を開催。「第6回世田谷区芸術アワード「飛翔」や、「第35回世田谷文学賞」では短歌・俳句・川柳・詩・随筆の5部門を募集。質の高い作品が集まった。

2019(令和元)年度
事業一覧

2-1 普及事業:展覧会関連イベント			
内容	開催日	参加者数(人)	
●石ノ森章太郎展関連イベント			
DVD 上映会 『サイボーグ009 THE CYBORG SOLDIER』	4/20	191	
DVD 上映会 『サイボーグ009 THE CYBORG SOLDIER』	5/5	196	
記念講演会 「石ノ森章太郎と過ごした日々」 出演:ちばてつや 聞き手:今秀生(石森プロ)	6/16	144	
●原田治展関連イベント			
ポップアップストア 出演:土井章史	7/20	493	
ポップアップストア 出演:土井章史	7/28	420	
トークイベント 出演:新谷雅弘 聞き手:信濃八太郎	8/25	156	
活弁付き映画上映会 弁士:澤登翠	9/14	79	
OSAMU GOODS 見せびらかし交流会 出演:土井章史	9/15	935	
●小松左京展関連イベント			
オープニング記念対談 「小松左京とSF 蜜月時代」 出演:筒井康隆、豊田有恒	10/13	178	
朗読会 「左京と宇宙をさまよう ―戦時少年が『日本沈没』を書くまで― 出演:声を楽しむ朗読会 司会:福島勝則	11/16	41	
トーク&上映会 『日本沈没』(2006年版) 出演:樋口真嗣、異好幸	12/7	130	
記念対談 「誰も語らなかった小松左京」 出演:とり・みき、ヤマザキマリ	12/14	155	
●六世 中村歌右衛門展関連イベント			
オープニング記念講演会 「歌右衛門の玉手御前」 出演:渡辺保	1/19	114	
見学会 「歌舞伎座ギャラリー」	2/12	17	
●コレクション展関連イベント			
読書会 仁木悦子「灯らない窓」 出演:新保博久	9/14	16	

2-2 普及事業:読書会・講演会・上映会			
内容	開催日	参加者数(人)	
●どこででも読書会			
世田谷文学館 保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、公民館、図書館、コミュニティセンター、高齢者施設、障害者施設、外国人労働者施設、外国人			

展覧会名	会期	日数	一般観覧料(円)	観覧者数(人)
●コレクション展				
前期:仁木悦子の肖像	4/20～9/23	136日	200	17,081
後期:「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち	10/12～3/29	140日	200	5,426
●企画展				
萬画家・石ノ森章太郎展 ―ボクは、ダ・ビンチになりたかった―	4/20～6/30	63日	800	11,145
原田治展 「かわいい」の発見	7/13～9/23	63日	800	35,923
小松左京展 ―D計画―	10/12～12/22	62日	800	5,764
第38回 世田谷の書展	1/5～1/12	8日	無料	476
六世 中村歌右衛門展 ようこそ歌舞伎の国へ	1/18～3/29	57日	800	3,028
展覧会観覧者数合計				78,843

2-2 普及事業:どこでも文学館		
内容		開催日 参加者数(人)
●どこでも文学館(出張展示)		
世田谷文学館、区内小中学校、区民センター、通年 保育園、幼稚園、群馬県川場村・区民健康村など		127,388
●どこでも文学館(催事)		
pipioといっしょにつくろう かいてつくろう おはなしアルバム 講師: pipio (武本佳奈絵+平澤朋子)	4/21	28
〈ほんとわ〉哲学カフェ 講師: 幡野雄一	5/25	11
(木工ワークショップ) 本游木 講師: 遠藤伸一	6/1	60
だれでも製本家 ～本の形に仕立てよう～ 講師: 佐藤真紀、中野裕子	8/9	36
ことばとからだ ～からだで表現しよう～ 講師: 日本女子体育大学ダンス・プロデュース 研究部(顧問: 松澤慶信)	8/22	27
pipioといっしょに親子で楽しむおはなしと あそびの時間 講師: pipio (武本佳奈絵+平澤朋子)	8/23	35
ネイチャーコラージュ ～自然素材に親しもう～ 講師: 須藤正男	8/27	42
pipioといっしょに親子で楽しむおはなしと あそびの時間 講師: pipio (武本佳奈絵+平澤朋子)	9/7	30
だれでも小説家 ～ショートショートを書くこう～ 講師: 荒居蘭	9/7、8、16	62
〈ほんとわ〉哲学カフェ 出演: 幡野雄一	9/15	17
もっと朗読を楽しもう ～プロの読み方を聞いてやってみよう～ 講師: 緒方賢一、水田わさび	11/9	31
〈ほんとわ〉哲学カフェ 出演: 幡野雄一	11/10	12
芦花小学校+大竹英洋ワークショップ 講師: 大竹英洋	11/11、12、 15	545
pipioといっしょに親子で楽しむおはなしと 万華鏡づくり 講師: pipio (武本佳奈絵+平澤朋子)	12/8	67
読み聞かせワークショップ ～もっと絵本を楽しもう～ 講師: 天野慶、まどか	12/18	28
ワン・ミニット・ムービー ～オリジナルの動画をつくろう～ 講師: 本田友美、北阪昌人	2/1	34

7 刊行物

タイトル	判型 / 頁数	頒価(円)
●世田谷文学館ニュース		
第72号8月 館長の作家対談: 蓮實重彦(文芸・映画評論家、フランス文学者、小説家) 当館収蔵品のご紹介: 寺山修司 仁木悦子宛て書簡	A4/12	無料
第73号12月 館長の作家対談: 三浦しをん(小説家) 当館収蔵品のご紹介: 小栗虫太郎「黒死館殺人事件」原稿	A4/12	無料
●展覧会図録		
「OSAMU'S A to Z 原田治の仕事」(亜紀書房発行)	A5/240	2,400円(税抜)
「小松左京展 ―D計画―」図録	A5/96	1,300円(税込)
「六世 中村歌右衛門展」図録	B5/96	1,300円(税込)
●その他		
「文芸せたがや」第35号	A5/130	600円(税込)
どこでも文学館報告書2019	B2(4ツ折)/1	無料
本と輪 この3冊 volume 5	A3(6ツ折)/1	無料
本と輪 この3冊 volume 6	A3(6ツ折)/1	無料
本と輪 この3冊 volume 7	A3(6ツ折)/1	無料
*2019(令和元)年度 助成・協賛		
助成	芸術文化振興基金 / 文化庁 平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業	
協賛	株式会社ウテナ / 東邦ホールディングス株式会社 / 昭和信用金庫 / 世田谷信用金庫 /	
企業・団体	株式会社ベネッセスタイルケア 芦花翠風邸 / JA 東京中央 / 芦花公園商店街振興組合	

〈ほんとかわ〉哲学カフェ 講師: 幡野雄一	2/15	19
--------------------------	------	----

2-3 普及事業:連続講座セタブンマーケット、ライ
ブラリー「ほんとかわ」関連イベント

内容	開催日	参加者数(人)
セタブンマーケット	6/1	1,984
吉田篤弘の〈ロンリー・ハーツ読書倶楽部〉 第1回 講師: 吉田篤弘	8/3	54
連続講座 遠藤周作 神に問いかけつづける旅 第1回「遠藤周作の思い出」 講師: 加賀乙彦	9/21	50
ロビンソン・クルーソー刊行 300年記念イベント 探検家・高橋大輔講演会 「物語を旅すること」 講師: 高橋大輔	9/22	63
連続講座 遠藤周作 神に問いかけつづける旅 第2回「遠藤周作 笑いの恵み」 講師: 持田叙子	9/29	27
連続講座 遠藤周作 神に問いかけつづける旅 第3回「『沈黙』から、現代のキリスト教世界」 講師: 富岡幸一郎	10/5	24
連続講座 遠藤周作 神に問いかけつづける旅 第4回「遠藤周作と歴史小説」 講師: 高橋千鶴破	10/19	27
連続講座 遠藤周作 神に問いかけつづける旅 第5回「遠藤周作とフランソワ・モーリヤック 『テレーズ・デスクル』の痕跡を追って」 講師: 福田耕介	10/27	18
0才からのジャズコンサート 講師: クニ三上、林正男、田村陽介	11/6	300
吉田篤弘の〈ロンリー・ハーツ読書倶楽部〉 第2回 講師: 吉田篤弘	11/17	58

2-4 普及事業:活動支援・共催事業その他

内容	開催日	参加者数(人)
市民活動・友の会支援、区内生涯学習グルー プ・大学からの展覧会見学の解説や学芸員実 習の受け入れ、区民センターへの出張講座、友 の会との共催イベントなどを行った	通年	401



第38回 世田谷の書展



小松左京展 ―D計画―

イベント他 ポスター・フライヤー



どこでも文学館2019



連続講座 遠藤周作



六世 中村歌右衛門展
ようこそ歌舞伎の国へ



コレクション展 前期:仁木悦子の肖像
後期:「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち
(パンフレット)



小松左京展 図録(同 リバーシブル表紙)



原田治展 図録
(亜紀書房より展覧会公式図録として刊行)



本と輪 この3冊
volume 7



本と輪 この3冊
volume 6



本と輪 この3冊
volume 5



どこでも文学館 報告書2019



文芸せたがや 35

企画展

第39回 世田谷の書展

1月5日(火)～11日(月・祝)

観覧料:無料

会場風景(第38回 世田谷の書展)

あしたのために あしたのジョー! 展
—情熱的にあすを生き抜くために—

1月16日(土)～3月31日(水)

観覧料:一般800円、高校・大学生・65歳以上600円、中学生以下無料



© 高森朝雄・ちばてつや/講談社

開館時間:
10時～18時(展覧会入場は17時30分まで)
休館日:
毎週月曜日(月曜日が祝日の場合には開館し翌日休館)

交通案内:
京王線 「芦花公園」駅南口より徒歩5分
小田急線 「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)
「芦花恒春園」下車徒歩5分

※駐車場は利用台数が限られます。
公共交通機関のご利用をお願いします



—綴じられた時間の物語—
第39回 世田谷の書展 1月5日～11日
—ムットーニのからくり文学館—
開催中 3月31日

1月
あしたのために あしたのジョー! 展
—情熱的にあすを生き抜くために—
1月16日～3月31日

2月

3月

コレクション展

—綴じられた時間の物語— ムットーニのからくり文学館

開催中～3月31日(水)【日時指定予約制】

観覧料:一般200円、高校・大学生150円、65歳以上・小・中学生100円



ムットーニ《月世界探検記》1995年 原作:海野十三「月世界探検記」



会場風景

Special Exhibitions

The 39th Setagaya Calligraphy Exhibition

Exhibition period: Jan. 5 (Tue.) – 11 (Mon.), 2021

Admission fee: Free

Ashita no Joe Exhibition

Exhibition period: Jan. 16 (Sat.) – Mar. 31 (Wed.), 2021

Admission fee: General 800 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 600 yen, Junior High school Students or younger Free

Permanent Collection

Muttoni Museum

Exhibition period: July 7 (Tue.) – Mar. 31 (Wed.), 2021

Admission fee: General 200 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 150 yen, Students (Junior High, Elementary School) 100 yen

* コレクション展団体(20名以上)は2割引
団体のご利用をご希望の方はあらかじめご連絡下さい
障害者手帳をお持ちの方は一般料金の半額

* Groups of 20+ visitors will receive a 20% discount on admission fee to collection exhibitions
Disability certificate holders will be admitted at 50% the general rate

Visitor Information

Opening Hours: 10:00 am to 6:00 pm (last admission 5:30 pm)

Closures: Every Monday (Closed Tuesday when a national holiday falls on Monday)

Access: 5-minute walk from Roka-koen Station's South Exit (Keio Line)
5-minute walk from Roka Koshun-en Park (take Keio Bus from Chitose-Funabashi Station [Odakyu Line] towards Chitose-Karasuyama Station [Keio Line])

* The number of parking spots available for use is limited. Please use public transportation.